

AGENDA

会 議 名	BIMを活用した積算・コストマネジメントの環境整備協議会 (BSIJ協議会) 第4回	記録	
日 時	2021年3月15日 (月) 10時～12時	確認・発行者	森谷
場 所	Web会議 (ZOOM)	発行日	2021年3月15日

出席者 (順不同・敬称略) ただし、●は出席予定者、○は欠席予定者を示す

座長	●	森谷靖彦	●	副座長 村瀬弘幸 (情報委員会WG主査)
委員	●	志手一哉 (情報委員会委員長)	●	常務理事: 前田伸子
	●	沼本要七	●	日本建築士会連合会: 横松邦明
	●	加納恒也	●	日本建築士事務所協会連合会: 加藤政弘
	●	田中洋介	●	建築設備技術者協会: 山下浩一
	●	菊野 格	●	日本ファシリティマネジメント協会: 飯島勇、松岡辰郎
	●	須貝成芳	●	BIMライブラリ技術研究組合: 寺本英治
	●	大越 潤	●	日本不動産鑑定士協会連合会: 立石正則
	●	中島 潤	●	建設物価調査会: 足利全教
	●	比嘉俊介	●	building SMART Japan: 三戸景次
	●	高橋肇宏	●	建築研究所: 高橋 暁
オブザーバー	●	日本建築家協会: 筒井信也	●	日本設備設計事務所協会連合会: 竹馬章二
	●	日本建築構造技術者協会: 馬場勇輝		
	●	日本ファシリティマネジメント協会: 猪里孝司	●	建設業振興基金: 中緒陽一、帆足弘治
	●	建築・住宅国際機構: 西野 加奈子	●	建設物価調査会: 岩井卓矢、丸木健
国土交通省	●	建築コスト管理研究所: 岩松 準	●	日本空調衛生工事業協会: 滝澤 宣昭
	●	国土交通省 住宅局 建築指導課: 田伏翔一	●	国土交通省大臣官房官庁営繕部: 小澤 剛
	●	国土交通住宅局建築指導課: 鈴 晃樹	●	国土交通省大臣官房官庁営繕部: 若桑節治
事務局	●	事務局長 塚原 均	●	国土交通省大臣官房官庁営繕部: 宮内 徹
配布資料	No.			
	1	(資料1) BSIJ協議会委員名簿		
	2	(資料2) 第3回BSIJ協議会議事録(案) 2020年12月24日版		
	3	(資料3) BSIJ協議会の活動について		
	4	(資料4) 各部会からの報告資料 (後日BSIJ協議会HPに掲載予定)		
	5	(資料5) その他資料 (後日BSIJ協議会HPに掲載予定)		

議事次第

NO	ITEM			ACTION / PROGRESS / CONTENTS	配布資料	担当	DUE DATE	
	No.	FROM	TO					
1	報告事項							
	1		森谷	ALL	委員名簿および前回議事録確認等	1		
						2		
	2		森谷	ALL	今年度のBSIJ協議会の活動について	3		
	3		志手	ALL	今年度の情報委員会の活動について(成果報告)	4		
	4		各WG	ALL	情報委員会活動報告等(各WGからの報告)	5		
		森谷	ALL	その他(質疑応答)および事務連絡等				
2	次回の開催予定							

2019・2020年 BIMを活用した積算・コストマネジメント環境整備協議会【名簿】

	氏名	所属団体等	勤務先等
座長	森谷 靖彦	(公社)日本建築積算協会	(株)NTTファシリティーズ総合研究所 情報システム技術本部 担当部長
座長補佐	村瀬 弘幸	(公社)日本建築積算協会	(株)日本設計 コスト設計部 主管
委員	志手 一哉	(公社)日本建築積算協会	芝浦工業大学 建築学部 建築学科 教授
委員	沼本 要七	(公社)日本建築積算協会	セブンニーズ建築研究所 所長
委員	加納 恒也	(公社)日本建築積算協会	(公社)日本建築積算協会 副会長 専務理事
委員	大越 潤	(公社)日本建築積算協会	CLIC Japan Director
委員	菊野 格	(公社)日本建築積算協会	(株)松田平田設計 テクニカルデザインセンター 副主任
委員	田中 洋介	(公社)日本建築積算協会	(株)安藤・間 建設本部 建築技術統括部 BIMセンター
委員	比嘉 俊介	(公社)日本建築積算協会	(株)安井建築設計事務所 東京事務所 コスト計画部 主事
委員	須貝 成芳	(公社)日本建築積算協会	(株)三菱地所設計 工務部 コストマネジメント室 チーフエンジニア
委員	中嶋 潤	(公社)日本建築積算協会	(株)大林組 グループ経営戦略室 経営基盤イノベーション推進部 副部長
委員	高橋 肇宏	(公社)日本建築積算協会	㈱日積サーベイ 東京オフィス BIMソリューション室チーフ
委員	横松 邦明	(公社)日本建築士会連合会	(株)横松建築設計事務所
委員	飯島 勇	(公社)日本ファシリティマネジメント協会	福井コンピュータアーキテクト(株) J-BIM推進課主任
委員	松岡 辰郎	(公社)日本ファシリティマネジメント協会	(株)NTTファシリティーズ エンジニアリング&コンストラクション事業本部 建築技術部 建築技術担当課長
委員	寺本 英治	BIMライブラリ技術研究組合	BIMライブラリ技術研究組合 専務理事
委員	加藤 政弘	(一社)日本建築士事務所協会連合会	(株)安井建築設計事務所 ビジネス創造部
委員	山下 浩一	(一社)建築設備技術者協会	(一社)建築設備技術者協会 専務理事
委員	立石 正則	(公社)日本不動産鑑定士協会連合会	(一財)日本不動産研究所 研究部 主任研究員
委員	足利 全教	(一財)建設物価調査会	(一財)建設物価調査会 建築調査部 部長
委員	三戸 景資	(一社)building SMART Japan	清水建設(株) 建築総本部 生産技術本部 BIM推進部 部長
委員	高橋 暁	国立研究開発法人 建築研究所	(国研)建築研究所 建築生産研究グループ長
委員	馬場 勇輝	(一社)日本建築構造技術者協会	(株)安井建築設計事務所 東京事務所 構造部
委員	筒井 信也	(公社)日本建築家協会	(公社)日本建築家協会 専務理事
委員	竹馬 章二	(一社)日本設備設計事務所協会連合会	(株)雙設備研究所 代表取締役
オブザーバー	猪里 孝司	(公社)日本ファシリティマネジメント協会	大成建設(株) 設計本部 設計企画部 企画推進室長
オブザーバー	西野加奈子	(一社)建築・住宅国際機構	(一社)建築・住宅国際機構 事務局長
オブザーバー	中緒 陽一	(一財)建設業振興基金	(一財)建設業振興基金 経営基盤整備支援センター 経営改善支援担当 情報化推進支援担当 部長
オブザーバー	帆足 弘治	(一財)建設業振興基金	(一財)建設業振興基金 経営基盤整備支援センター 情報化推進室 上席特別専門役
オブザーバー	岩井 卓矢	(一財)建設物価調査会	(一財)建設物価調査会 維持改修調査推進室 課長
オブザーバー	丸木 健	(一財)建設物価調査会	(一財)建設物価調査会 総合研究所技術研究課 総括主任
オブザーバー	岩松 準	(一社)建築コスト管理システム研究所	(一社)建築コスト管理システム研究所 研究部 統括主席研究員
オブザーバー	滝澤宜昭	(一社)日本空調衛生工事業協会	三機工業(株) 建築設備事業本部調達本部企画部 担当部長
オブザーバー	田伏 翔一	国土交通省 住宅局 建築指導課	国土交通省 住宅局 建築指導課 課長補佐
オブザーバー	鈴 晃樹	国土交通住宅局建築指導課	課長補佐
オブザーバー	小澤 剛	国土交通省 大臣官房官庁営繕部 計画課営繕積算企画調整室	国土交通省 大臣官房官庁営繕部 計画課 営繕積算企画調整室長
オブザーバー	若桑節治	国土交通省 大臣官房官庁営繕部 計画課営繕積算企画調整室	国土交通省 大臣官房官庁営繕部 計画課 営繕積算企画調整室 係長
オブザーバー	宮内 徹	国土交通省大臣官房官庁営繕部 整備課施設評価室	国土交通省大臣官房官庁営繕部 整備課施設評価室 企画専門官

Meeting Minutes

会 議 名	BIMを活用した積算・コストマネジメントの環境整備協議会 (BSIJ協議会) 第3回	記録	塚原
日 時	2020年12月23日 (水) 13時～15時	確認・発行者	森谷
場 所	Web会議 (ZOOM)	発行日	2020年12月24日

出席者 (順不同・敬称略)

ただし、●は出席者、○は欠席者を示す

座長	● 森谷靖彦	● 副座長 村瀬弘幸(情報委員会WG主査)
委員	● 志手一哉(情報委員会委員長)	● 常務理事: 前田伸子
	● 沼本要七	● 日本建築士会連合会: 横松邦明
	● 加納恒也	● 日本建築士事務所協会連合会: 加藤政弘
	● 田中洋介	● 建築設備技術者協会: 山下浩一
	● 菊野 格	● 日本ファシリティマネジメント協会: 飯島勇、松岡辰郎
	● 須貝成芳	● BIMライブラリ技術研究組合: 寺本英治
	● 大越 潤	● 日本不動産鑑定士協会連合会: 立石正則
	○ 中島 潤	● 建設物価調査会: 足利全教
	● 比嘉俊介	● building SMART Japan: 三戸景次
	● 高橋肇宏	● 建築研究所: 高橋 暁
	○ 日本建築家協会: 筒井信也	● 日本設備設計事務所協会連合会: 竹馬章二
	● 日本建築構造技術者協会: 馬場勇輝	
オブザーバー	● 日本ファシリティマネジメント協会: 猪里孝司	● 建設業振興基金: 中緒陽一、帆足弘治
	○ 建築・住宅国際機構: 西野 加奈子	● 建設物価調査会: 岩井卓矢、丸木健
	● 建築コスト管理研究所: 岩松 準	● 日本空調衛生工事業協会: 滝澤 宣昭
国土交通省	● 国土交通省 住宅局 建築指導課: 田伏翔一	● 国土交通省大臣官房官庁営繕部: 小澤 剛
	○ 国土交通住宅局建築指導課: 鈴 晃樹	● 国土交通省大臣官房官庁営繕部: 若桑節治
		● 国土交通省大臣官房官庁営繕部: 宮内 徹
事務局	● 事務局長 塚原 均	以上36名

配布資料	No.	
	1	(資料1) 委員名簿
	2	(資料2) 第2回BSIJ協議会議事録(案) 2020年2月7日版
	3	(資料3) 部会4の活動について(建築BIM推進会議資料より)
	4	(資料4) 情報委員会活動報告資料(各部会からの報告資料)
	5	(資料5) 分類体系 Uniclass2015 日本語訳の公開について
	6	その他

議事次第

NO	ITEM			ACTION / PROGRESS / CONTENTS	配布資料	担当	DUE DATE
	No.	FROM	TO				
1	報告事項						
1		森谷	ALL	委員名簿および前回議事録確認等 委員名簿および前回議事録を確認し、特に意見および修正はなかった。	1 2		
2		森谷	ALL	建築BIM推進会議における部会4の活動について 12月16日に親委員会(建築BIM推進会議)で部会4として今年度中間報告をした内容に沿って説明があり、他部会と連携して国土交通省のまとめたスケジュールに従って進めていることを紹介した。	3		
3		志手	ALL	今年度の情報委員会の活動について 情報委員会 志手委員長から活動報告があり、概算によるコストマネジメントをBIMで展開する上で建設分類体系の中で特にUniclass2015のコード分類を用いるために3つのサブWGで詳細を詰めていることの説明があった。			

Meeting Minutes

会 議 名		BIMを活用した積算・コストマネジメントの環境整備協議会 (BSIJ協議会) 第3回				記録		塚原	
日 時		2020年12月23日 (水) 13時～15時				確認・発行者		森谷	
場 所		Web会議 (ZOOM)				発行日		2020年12月24日	
	4		各部部长	ALL	情報委員会活動報告 (各部部长からの報告)	4			
			村瀬		(1)分類体系部会 村瀬部部长から資料4に基づいて①Uniclass2015の日本語訳、②コストマネジメントに必要な情報の整理、③概算支援ツールの作成の各進捗状況の説明があった。 (2)高橋委員からコスト概算支援ツールの目的、仕組み、試作の検討について説明があった。 (3)菊野委員からUniclass2015を取り扱う英国のNBSとの協議内容について、意見交換しながら日本語訳を作成している現状の説明があった。	5			
	5		田中	ALL	分類体系 Uniclass2015 日本語訳の公開について 最新のUniclass2015日本語訳が当協会ホームページに公開してパブコメを募集していることについて説明があり、積極的なコメント提出の協力依頼があった。	6			
	6		ALL	ALL	その他 (質疑応答) 1. building SMART japan三戸委員より、 (1).弊社でUniclassをPJで検討試行したことがあるが、適用が難しいと感じている。Uniclassなど国際仕様様に準拠する必然性はあるますか。 (2).日本の積算基準などを変更する必要があるのではないかと。 (3).ユースケースを提示してほしい(コンクリート、型枠、鉄筋のコード割当でも良いので)との意見があった。 回答:村瀬部部长からグローバルな視点から将来を見据えて今から国際標準に準拠した考え方を取り入れることは大切だと思う、との1に対する回答があった。 菊野委員からUniclassのヒエラルキとしてのアクティビティの考え方が合理的である、との説明があった。また、情報委員会齊藤委員から、Revitのモデルはコンクリートの1つのコードEFやSsなどしか割り当てられないため、型枠や鉄筋は高橋さんが行っている概算プログラムで紐づけ算出できるようになっている。積算基準の変更など貴重なご意見をいただいたので、それを踏まえて今後検討していきたい、との説明があった。 2. 日本不動産鑑定士協会連合会 立石委員より、 現在の不動産では建物に紐づいた土地ということで、空間による合成単価の考え方が実務的であるが、アクティビティの価値としてシステムを意識しながら進めることができるのか、との質疑があった。 村瀬部部长からプロセスの上流川下段階のアクティビティごとに転用して、スペース、建物用途でまとめることができるとの回答があった。				
2	次回の開催予定								
		年度内に成果報告会を開催する予定							

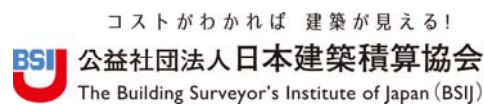
公益社団法人 日本建築積算協会・情報委員会

「BIM を活用した積算・コストマネジメントの環境整備」協議会 (建築BIM推進会議 第4部会)



BSJ マスコットキャラ
宝積 (はづみ) さん

第4回(令和3年3月15日 10:00~12:00)



本日(3月15日)の予定

10:00~	開会
10:05~10:15	2020年度BSIJ協議会の活動について
10:15~10:45	2020年度BSIJ情報委員会の成果報告
10:45~11:15	各部会からの成果報告
11:15~11:30	成果報告に関する質疑応答
11:30~11:40	今後のBSIJ協議会(部会4)の活動について
11:40~11:55	全体に対する質疑応答および事務連絡等
12:00	閉会

部会 4	2020年度		2021年度	2022年度
	上期 実施内容	下期 実施予定		
各年度の 実施内容 (概要)	・ 国外における建築分類体系の翻訳と内容の整理 ・ BIMオブジェクトと分類の対応に係る調査分析	・ 国内分類体系の素案策定とモデル事業への適用 ・ 他の部会と連携し、成果をBIMオブジェクトへ実装	他の部会と連携し、モデル事業に適用した結果を踏まえた実践的な分類体系の策定を行う	国交省や他の部会、関連団体等と連携し、活動成果を市井に普及させるための活動を行う
実施内容 (詳細)	1) 国外における建築分類体系の翻訳と内容の整理。業務と照らし合わせた上での問題点等の整備 2) BIMオブジェクトの分類への対応に係る調査分析を行い、Uniclass2015と概念的分類との関係を取りまとめる	モデル事業(過去の実案件)を設定し、これに上半期で策定した分類体系を適用し課題の抽出と体系の見直しを行い、年度末に報告書にまとめる。建築分類体系利用方法の提案、そしてメリットが出てくる環境の提案	国際標準に則ったBIMモデル標準化案の策定と実証実験の完了	国際標準に則ったBIMモデルの確定と普及啓蒙活動の展開
成果・目標	(注：特に20年度末の成果物等を具体的に記入) ・ Uniclass2015をベースとしたBIM分類体系標準案の策定を行う ・ モデル事業を設定し、建築分類体系の検討を行う ・ 2020年度のモデル事業の成果を検証し、次年度以降の検討課題をまとめる ・ モデル事業適用後の成果を、NBSと連携するための整理を進める (※日本でUniclass2015を活用するための助言や支援をいただくことを目的とした協定を、NBSと積算協会で締結した) ・ 建築分類体系利用方法の提案 ・ 分類体系 Uniclass2015 日本語訳の公開とパプコメ実施 (R3年1月末迄) http://www.bsij.or.jp/info/bsijconference.html		・ 部会 2～5 と連携したガイドライン案の策定を行う ・ 設備概算のステージ毎の考え方と項目の整理を行う	前年度の作業継続と新年度目標に則した活動を実施する

成果報告

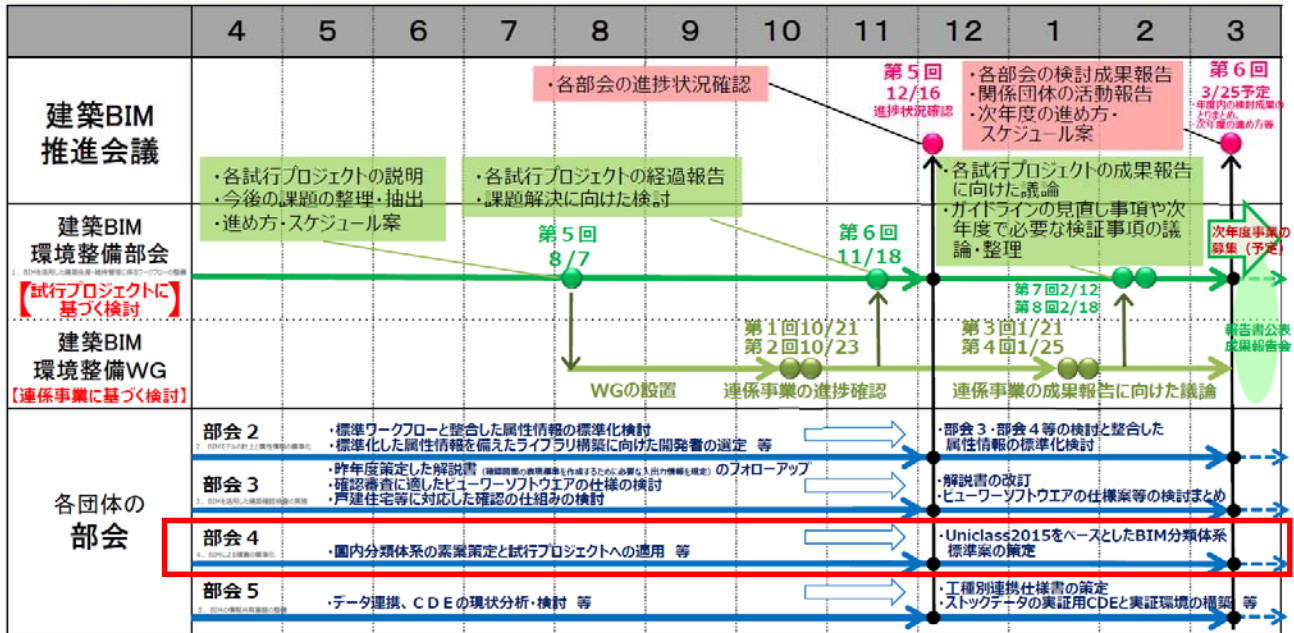
BSIJ情報委員会（国土交通省建築BIM推進会議部会4）

建築BIM推進会議・部会等のスケジュール [令和2年度]

第7回建築BIM環境整備委員会
資料 3

国土交通省

- ✓ 令和2年度は、官民が発注する実際のプロジェクトにおいて、「建築分野におけるBIM標準ワークフローとその活用方策に関するガイドライン（第1版）」に沿って試行的にBIMを導入し、コスト削減・生産性向上等のメリットの定量的把握・検証や、運用上の課題抽出を行う。
- ✓ 建築BIM環境整備部会では、これら試行プロジェクトにおける検証の経過や結果について共有・議論し、今後のガイドライン改訂に向けた検討を進める。また、連携事業についても検証の経過や結果について共有・議論を行う（進捗の確認等のためWGを設置）。
- ✓ 建築BIM推進会議は、引き続き各部会の進捗状況の確認及び検討結果の共有、関係団体の活動状況の共有を図る場として活用。

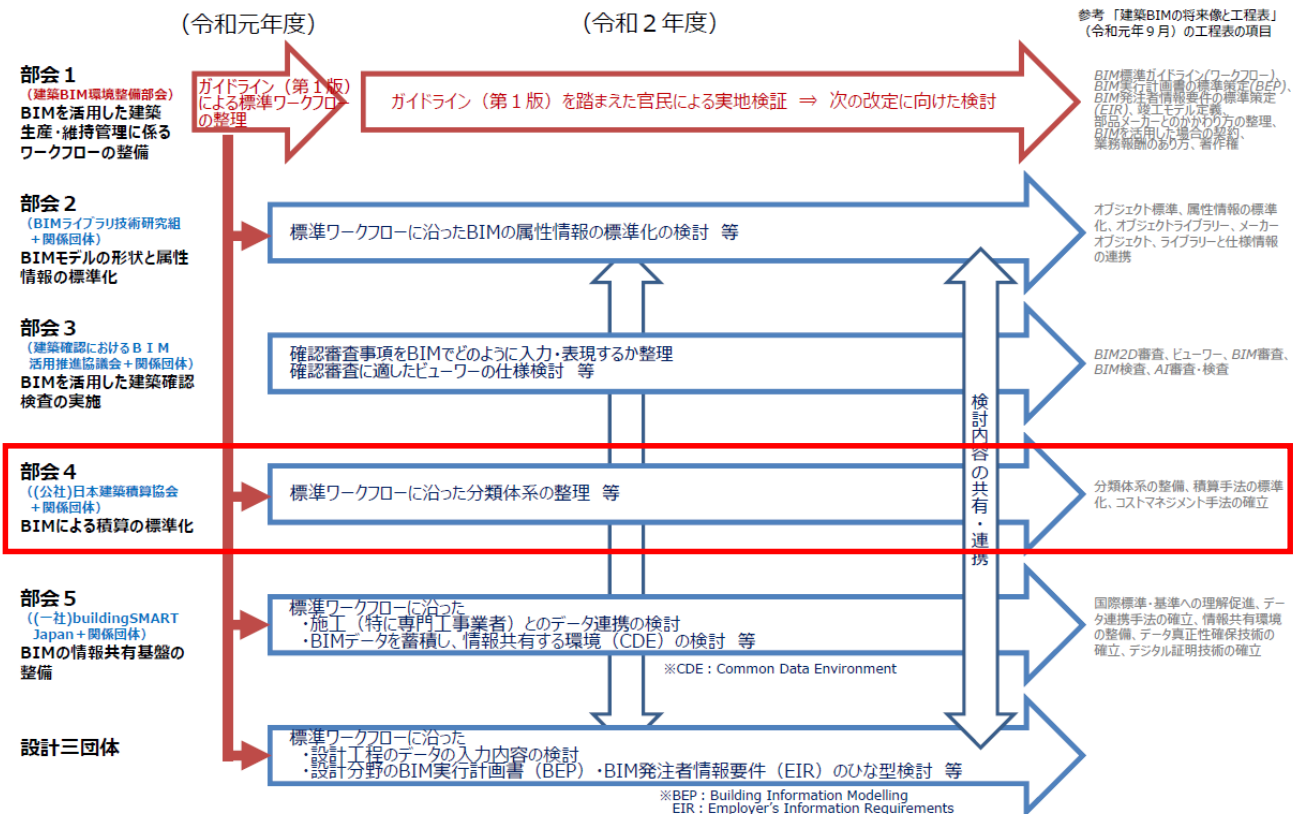


国土交通省 建築BIM推進会議Webサイトより <https://www.mlit.go.jp/jutakukentiku/kenchikuBIMsuishinkaigi.html>

令和2年度 各部会等の検討の関係性について(概要)

第5回建築BIM推進会議
資料 4

国土交通省



国土交通省 建築BIM推進会議Webサイトより <https://www.mlit.go.jp/jutakukentiku/kenchikuBIMsuishinkaigi.html>

部会 4	2020年度		2021年度	2022年度
	上期 実施内容	下期 実施予定		
各年度の 実施内容 (概要)	・ 国外における建築分類体系の翻訳と内容の整理 ・ BIMオブジェクトと分類の対応に係る調査分析	・ 国内分類体系の素案策定とモデル事業への適用 ・ 他の部会と連携し、成果をBIMオブジェクトへ実装	他の部会と連携し、モデル事業に適用した結果を踏まえた実践的な分類体系の策定を行う	国交省や他の部会、関連団体等と連携し、活動成果を市井に普及させるための活動を行う
実施内容 (詳細)	1) 国外における建築分類体系の翻訳と内容の整理。業務と照らし合わせた上での問題点等の整備 2) BIMオブジェクトの分類への対応に係る調査分析を行い、Uniclass2015と概念的分類との関係を取りまとめる	モデル事業(過去の実案件)を設定し、これに上半期で策定した分類体系を適用し課題の抽出と体系の見直しを行い、年度末に報告書にまとめる。建築分類体系利用方法の提案、そしてメリットが出てくる環境の提案	国際標準に則ったBIMモデル標準化案の策定と実証実験の完了	国際標準に則ったBIMモデルの確定と普及啓蒙活動の展開
成果・目標	(注：特に20年度末の成果物等を具体的に記入) ・ Uniclass2015をベースとしたBIM分類体系標準案の策定を行う ・ モデル事業を設定し、建築分類体系の検討を行う ・ 2020年度のモデル事業の成果を検証し、次年度以降の検討課題をまとめる ・ モデル事業適用後の成果を、NBSと連携するための整理を進める (※日本でUniclass2015を活用するための助言や支援をいただくことを目的とした協定を、NBSと積算協会で締結した) ・ 建築分類体系利用方法の提案 ・ 分類体系 Uniclass2015 日本語訳の公開とパプコメ実施 (R3年1月末迄) http://www.bsij.or.jp/info/bsijconference.html		・ 部会 2～5 と連携したガイドライン案の策定を行う ・ 設備概算のステージ毎の考え方と項目の整理を行う	前年度の作業継続と新年度目標に則した活動を実施する

将来像の実現に向けた基本的な戦略

- ・ BIMによる将来像を実現するため、建築業界は今後、BIM活用環境の整備に係る取組を、以下の方針に従って進めることとする（建築BIM推進会議資料より）

① マーケットの機能を生かしながら、官・民が適切な役割分担の下で協調して進める

② 先行的な取組を進め、その後に一般化を図る（PDCAサイクルによる精度の向上）

③ 我が国の建築業界の国際競争力の強化を図るため、可能な限り国際標準・基準に沿って進める

- ・ 今後は、当部会 4 と各部会(2～5)との連携強化が必要です。
- ・ 引き続きご協力ほど、よろしくお願いいたします。